

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891400125		
法人名	特定医療法人 紀洋会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム 福の郷		
所在地	兵庫県篠山市井上167-1		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果市町村受理日	平成29年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19
訪問調査日	平成28年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来意識しているのは、できることはなるべく利用者に行っていただくということで、職員も最初は戸惑いもあったが、今では定着しつつあると思う。一緒に作業しているとまだまだ利用者の持っている新しい能力を発見できる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の思いを「自分らしい暮らし」として事業所理念に掲げ、職員と共有を図り、「支援方針」として具体化し実践に努めている。協力医療機関は同一法人で、定期的に往診があり、急変等の対応を含め、家族には安心をいただいている。食事は利用者が食べたいものを選び、出来る人は一緒に調理して、一緒にわいわいとテーブルを囲み、楽しい食事時間となっている。利用者は昼間のほとんどを、広いリビングで過ごされている。壁には「福の郷の歌」が貼られており、皆で歌ったり、会話が弾む和やかな空間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしい暮らし」を理念に掲げ、常にその人の以前の暮らしが継続できるよう標示し、職員も共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念として「自分らしい暮らし」掲げ、月1回のミーティングで共有し、日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	28年は地域との防災訓練をおこなったり要介護者の避難方法について説明をおこなった。行事のボランティアや参加は少しずつ実践できているが、日常的な交流はまだ不足している。	地域の自治会に加入しているが、日常の接触は少なく関係は今一つである。そのことは関係者は十分に認識しているので、交流の機会を増加させる取り組みに力を入れることに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	28年は地域住民学習にて介護や施設について講演などおこなうことができた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、毎回取組状況など報告し、意見が出た場合は改善・サービス向上に努めている。	隣接の小規模多機能施設と合同で、2カ月に1回奇数月に開催している。メンバーは、民生委員・家族代表・市職員・地域包括支援センター職員・地域代表・事業所関係者で構成。次回の開催日は出席者の意向を確認して決定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密にしていることはないが、必要時は連絡している。運営推進会議には市の職員や包括支援センター職員にも参加してもらい意見が出た場合には改善・サービス向上に努めている	篠山市地域福祉課とは、必要の都度連絡している。職員に運営推進会議に出席してもらう他、今年度は市の主催で、「地域密着型サービス事業所連絡会」が開催されて、連携が強まってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて身体拘束の行為を理解し、身体拘束は行っていない。玄関も夜間のみ施錠している。	何が身体拘束になるのかを、繰り返し研修を重ね、身体拘束にならないよう細心の注意を払い日常のケアに当たっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて虐待への理解を深め、日頃から虐待がないよう注意している。	身体拘束と同様に研修を重ね、虐待が見過ごされることがないように互いに注意し合うなど、防止に努力をしている。	u

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修にて権利擁護に関する理解を深めるよう努めている。	法人の開催する研修会に参加して、権利擁護に関しての理解を深めている。現在成年後継制度の利用者が一人いる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書に添い、十分に説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や内容に変更があった際は、丁寧に説明して理解納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族による日頃の訪問時や行事参加時に近況の様子など話す機会を設けているが、今まで運営に関する意見は出ていない。	家族の来訪時に意見を聞くようにしているが、管理者が不在時が多いため直接に意見聴取ができていない。意見箱も置いているが投函された実績はない。	家族来訪時の意見聴取の仕組みを考えられたい。家族が参加しやすい行事の計画と案内を徹底して、家族が集まれる機会を作り、家族会の代替機能を果たすことを提案したい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や連絡・申し送りノートで常に職員意見を反映している。	月1回のスタッフ会議や申し送りノートで職員意見を聴取しているというが十分に運営に反映されていると思えない。	管理者は、業務分担を明確にして責任をもって仕事に専念できる仕組みづくりを考えられたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時で終業できるようにしている。年2回の人事考課をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画による研修を行っている。 28年はキャリアパス評価を行い、それぞれの職員がスキルにあった研修に参加できる仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの意見交換を行い、質の向上に取り組んでいる。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族・本人面談にて、生活歴・現在の不安・また得意・好きな事を聞き支援に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族・本人面談にて、生活歴・現在の不安・また得意・好きな事を聞き支援に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を傾聴し、状況に応じ、家族・本人も納得できるサービスが提供できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとう」と言うより、言われるほうが人は生きがいをを感じることを念頭に入れ、出来ることは行ってもらえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出の機会を一緒に相談したり、職員と自宅に訪問し家族と楽しい時間を過ごしたり家族と協力している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲であるが行きたい場所、会いたい人など、本人・家族に聞き行ったり、会えるよう支援している。	地元の敬老会行事に参加したり、自宅の庭に自生している薔を摘みに行く人もいる。親戚の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は職員が把握しており、都度座る場所や職員の関わり方を考え配慮している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状態も家族に聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言える方は把握しやすいが、困難な場合は、やはり生活歴の把握が重要だと考え、管理者だけでなく日頃から職員全体で家族とのコミュニケーションを図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初から深く聞こうとはせず、徐々に馴染みの関係を築くことが大切と思い、都度新しい情報はケース記録に記載し共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にできる活動を行っている活動に変換できるよう努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題発生時、家族訪問時に状態を説明し、対応を協議している。	本人がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について検討するため関係者で話し合っているが、「自分らしい暮らし」の考え方が生かせるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・日誌にて特に本人の言動を記録し、その他個別支援実施状況、水分量、排泄、バイタルを記録し支援に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気のいい日は外出したり、可能な限り柔軟に対応している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケの参加や地域の祭り等への見学にいたりしている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院より月2回の往診、月1回の口腔外科の往診を行っている。	入所時にかかりつけ医を、母体法人の中核である「岡本病院」の医師となることを説明して了解を得て、月2回の往診、月1回の口腔外科の往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護により訪問を月2回、また24時間連絡が可能で状態変化時は連絡し指示を受けている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、MSW・看護師長と連携をはかり相互に連絡しあっている。またできるだけ主治医による説明も家族と出席している。	入院は「岡本病院」が大半なので、入退院時の連携は十分にできている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時も説明しているが、その状況になった場合再度、医療関係者、家族を交え話し合い対応している。	開設以来2人の看取りを経験した。このことで利用者・職員は個人を見送ることの貴重な体験をした。職員は、生命の大切さを実感して日常の業務に生かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全員が把握できるようにしている。年1回看護師による緊急時の対応の研修をおこなっている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火避難訓練を行っている	隣接する同系列のデイサービス・小規模多機能施設合同の避難訓練を実施した。今回は隣の自治会の参加があり、デイサービスを避難場所として集合し炊き出しの訓練も行われた。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はいつも本人が大切にされていると思えるような支援を心がけ、言葉遣い、態度に注意している。	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を尊重し、家事等気分や体調で行わない時もあるが無理強いはしていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝や起床も利用者のペースにできるだけあわせているので時間は決めていない。日課も決めていないので柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能なかぎり自分で着替えをえらんだり、職員が眉を整えたり、時には化粧をしたりしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ一緒に準備したり片づけしたりしている。同じ食事ではないが朝・昼・夕と職員と一緒に食べている。食べたい物の希望や買い物も時々行っている。	3食とも事業所で調理している。メニューを年2回法人の管理栄養士がカロリー計算などチェックしている。事業所の畑で地元の人が黒豆を栽培してくれ、これを収穫して豆ごはんを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による定期での評価・助言を受けている。食事量・水分量は毎日記録し、少ない場合は嗜好にあった飲み物や食べ物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い介助が必要な方も重曹と舌ブラシ等でケアし肺炎予防に努めている。月1回口腔外科の往診、月4回歯科衛生士によるチェックを行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄を促し、実践している。	排泄の自立できる人は4人、要介護者は5人であるが、昼間は全員トイレでの排泄を支援している。夜間のおむつ交換の必要な人は1人いるが、自立に向けた支援に努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や運動また排便のパターンを把握しトイレ誘導をおこなっている。それでも出ない時は主治医に相談し薬を使用している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上入っており、入る前にバイタル測定、本人の意思を確認し無理強いしていない。湯船に入っている時は脱衣室で様子を伺い、羞恥心に配慮している。	入浴を楽しめるような支援に努めている。入浴嫌いな人にも無理強いせず気長に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を調整したり、体調や体力に応じて、日中の活動を促し、昼夜逆転にならないよう支援している。また、夜の入眠時間も、本人の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう2重チェック、服薬時の確認の徹底をしている。処方に変更があれば職員で共有し、変更後からの状態・バイタルの観察を行い、その変化を主治医・看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で毎朝玄関の掃除など習慣の継続支援や自宅で行っていなかったが潜在している調理の能力を引きだせるようにしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と協力し自宅に帰ったり、買い物、食事、季節ごとの外出の支援をおこなっているが、以前よりは頻度的に少なくなってきた	近くに店舗がないため、食材の買い物も車使用となるので、利用者の同行も限定される。散歩等の外出も付き添いの職員の体制上あまり多くない。家族訪問時の帰宅や墓参りの同行など家族に頼りがちである。外出機会をどう増やすのが課題である。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し小遣い程度自分で持っているかたもある。買い物時は自分で支払いできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきは自由に投函できるよう支援している。手紙等も本人宛てであれば本人に渡している。電話に関しても自由である。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや、製作した作品、花などを飾り、殺風景にならず生活感のある空間になるよう配慮している。	居間兼食堂は、机を移動することにより多目的に使用している。調査当日は音楽療法で専門の先生の指導で利用者が楽しむ様子が確認できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、視線を合わせなくてもいいようテーブルを1台配置し、一人で食べたい時や他人と関わらないほうがいい時は配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にできるだけ使い慣れた家具等を持ち参ってもらうよう説明している。位牌などの持ち込みもされており、毎日お供えをしている。	各人が使い慣れたものを持ち込み、自分らしい部屋づくりになっている。全員が自分の部屋の位置を認識し間違えることはない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に介助バーを設置したり、トイレ・浴室等も標示し分かりやすくしている。		

基本情報

事業所番号	2891400125
法人名	医療法人社団 紀洋会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム福の郷
所在地	兵庫県篠山市井ノ上167-1 電話 079-555-2053

【情報提供票より】平成 28 年 11 月 15 日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成25年3月17日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人 非常勤 3人	常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り <small>1階建ての1階部分</small>
------	------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	155 円	昼食	309 円
	夕食	361 円	おやつ	103 円
	または1日当たり円			

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.6 歳	最低 82 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本病院
---------	------

(様式2(1))

事業所名::グループホーム 福の郷

目標達成計画

作成日: 平成29年 2月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		デイサービス、小規模が隣接しており色んなめんでもっと協力できれば価値も高まり総合力も高まるのでは。	共同での行儀開催やそれぞれのイベントへの参加を例年より多くし総合力を高める。	夏祭り等の共同開催や地域への啓発も一緒に行う。	12ヶ月
2		ご家族がもっと来設して頂けるように努力をする。	ご家族の来設回数を増やす。	年間計画をつくり、できるだけ前もってご家族へ行事等の日程をお知らせしご家族が予定が立てやすいようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()